



香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑥1

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について説明してくれるコラム。口唇や顔面などに出るヘルペスはウイルス感染が原因で起こります。8種類あるヘルペスウイルスのうち、今回は単純ヘルペス、水痘帯状疱疹ヘルペスについて紹介します。

ヘルペスによる痛みが強い場合は、ペインクリニック治療で早めに痛みを取ることが大切です

風邪を引いた後などに、膜に小さな水疱が多数生じ、口の周りが赤くなり、しばしば自然治癒や治療で消滅しても何度も繰り返すことが生じ、次第に群がったことはありませぬが、俗に「熱の花」と呼ばれるこの発疹(ほっしん)は単純ヘルペスウイルス感染で起こります。単純ヘルペスウイルス(HSV)は1型と2型があり、1型は口唇や顔面、目の周り、指などに、2型は生殖器や臀部(おしり)に生じます。発症部位により口唇ヘルペス、角膜炎ヘルペス、生殖器ヘルペスなどと呼ばれます。

感染力は強く、直接水疱部を触ったり、患部をぬぐったタオルなどを媒介として感染。親子や夫婦間での感染が多く見られ、感染すると皮膚や粘

膜に小さな水疱が多数生じ、2週間程度口内炎が続きます。再発時には口唇ヘルペスとよばれる発疹が唇に生じ、赤くなり腫れを伴います。大体1週間程度で治癒します。顔面では、目の近くに発疹が出現した場合に注意が必要です。角膜炎に感染した場合には(単純ヘルペス角膜炎)びらんが生じるため、視力障害(時に失明)をもたらす危険があります。診断は皮膚症状から主としてなされます。診断が困難な場合は水疱から採った細胞を顕微鏡検査し確定するので皮膚科専門医の診察を受けることが最善。治療は抗ウイルス薬が主体で再発の回数を減少できます。

一方、水痘帯状疱疹ウイルスは、小児期にかかることが多い水ぼうそうと50歳以上に多くみられる帯状疱疹(ひし)を起こします。初感染の後一時治癒しても神経節に潜伏し続けるため、加齢、ストレス、免疫力低下などでウイルスが活性化され増殖すると、感染した神経が支配する領域(片側の皮膚に限って)帯状に水疱が出現。帯状疱疹も抗ウイルス薬の治療が主体ですが、軽微な刺激でも眠れない、食事ものを通らないなど、激痛を伴うことがあるのが特徴です(帯状疱疹神経痛)。

痛みが強い場合は、ペインクリニック治療で早めに痛みをとることが大切です。今回は帯状疱疹神経痛と帯状疱疹後神経痛について説明します。

梶木病院

☎(086)233-1111